

令和5年度 第4回 北海道社会福祉審議会
地域福祉支援計画専門分科会 議事録概要

- 1 日時
令和6年1月25日（木）13時～14時30分
- 2 場所
北海道立道民活動センター(かでの 2.7) 740 研修室
※ オンライン併用
- 3 出席者
橋本分科会長、岡田委員、中村委員、高江委員、平本委員、大原委員、
村山委員
※ 岡田委員、中村委員、高江委員、平本委員、大原委員、村山委員
はオンラインで出席
- 4 欠席者
藤原委員、澤田委員、佐川委員
- 5 事務局
板垣福祉局長、秋田地域福祉課長、神原地域福祉推進係長、小橋主事
- 6 議題<第2期北海道地域福祉支援計画の策定>
(1) パブリックコメントの実施結果
(2) 「素案」から「案」への変更点
- 7 議事
(1) 事務局から資料に基づき説明

(2) ご意見等 (有・無)

橋本会長) パブリックコメントと意見に対する道の考え方は公表されるか。

→事務局) 一体的に道のホームページで公表する。

岡田委員) 地域福祉計画の推進支援に関して、実効性のある計画がどうやったら策定できるのかといったマニュアルなどを示す必要がある。

→事務局) 今後、検討していきたい。

岡田委員) 民生委員が安心して働くことができるよう、コミュニティソーシャルワーカーのような専門職を配置し、連携しながら活動できるようにすべき。

→事務局) ICTの活用や重層事業との連動によって、民生委員の負担軽減、担い手確保に努めたい。

村山委員) 素案44ページで修正された部分で、3分野の相談支援体制の記載があるが、重層事業に合わせて、生活困窮の分野を加えた4分野としてはどうか。

→事務局) 生活困窮分野については、別のページで掲載しているため、注記を入れるなどして、重層事業とリンクした記載にしたい。反映したものは後日報告する。

→岡田委員) 函館市の地域包括支援センターは、生活困窮者の対応も市からの業務委託で実施されているので、紹介するなど参考にしてもらいたい。

→事務局) 同市の「福祉拠点」に関する取組の記述についても、可能であれば検討する。

岡田委員) 人口減少が著しい中、スマートシティやコンパクトシティといったことも、計画期間の6年間で課題となってくる。また、地域づくりとして、単に福祉だけの問題ということではなく、地域の雇用を創るようなことも、地域福祉計画を推進していく際には、考えていく必要がある。

大原委員) 市町村への計画策定に対するアプローチに関して、重層の作り方というような研修より、自治体をどうデザインするのかというような計画策定まで踏み込むアプローチが必要。

地域福祉支援計画の中の子どもに関する記述は増えたが、まだ少ない印象。教育や福祉を超えて、地域で子どもたちを育てていく仕組みが必要。

人材確保に関して、小さな自治体が多くある道の特性に応じ、広域的連携やリモートの活用により、人材不足をカバーしていく仕組みづくりを考える必要がある。

(3) 事務局案について (承認)・否認

以上